栗林田中遺跡現地説明会

平成２７年１０月２４日（土）
高松市　文化財課

高松市では、栗林小学校校舎等建設事業に伴い、平成２６年６月から発掘調査を実施しており、今回の調査は、第３次調査となります。

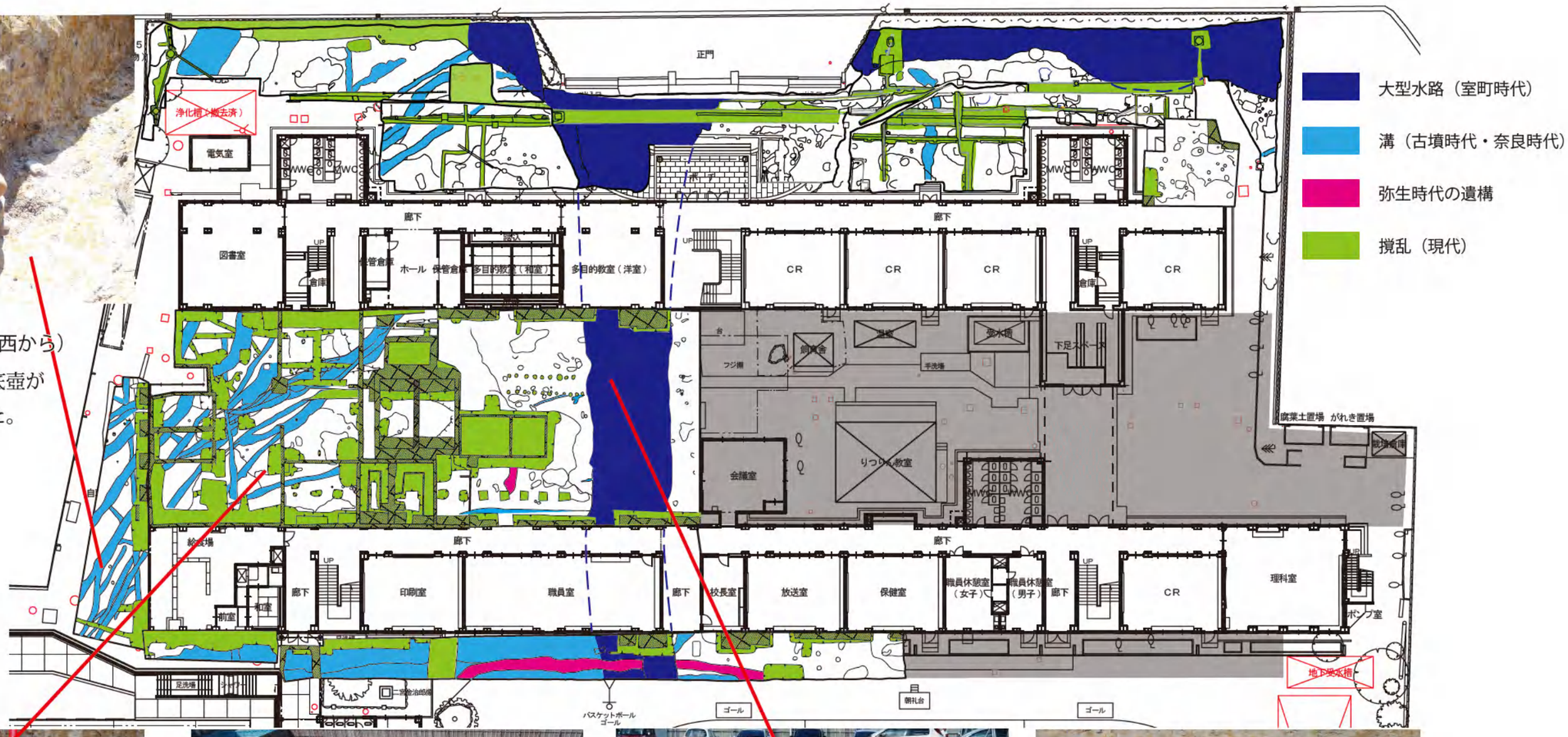
栗林田中遺跡は、栗林小学校の校舎建設に伴い、新たに発見された遺跡で、現在の地名である『栗林』と字名（昔の地名）である『田中』をとり、この名前になりました。

これまでの調査で、旧石器時代から近世に至る、遺構や遺物が確認されており、今回の調査では、古墳時代前期と考えられる小型仿製鏡（こがたぼうせいきょう）が出土いたしました。
鏡は、当時の有力者しか所有することができなかったと考えられており、この地域に、当時の有力者が居住する集落が存在した可能性があります。

今回の現地説明会では、栗林田中遺跡の土地利用の変遷と、出土遺物について、説明します。

小型丸底壺出土状況（北西から）

溝の中から、小型丸底壺が完全な形で出土しました。



小型仿製鏡出土状況（南から）

落込み状の遺構から、小型仿製鏡が出土しました。

第１０調査区　全景（東から）

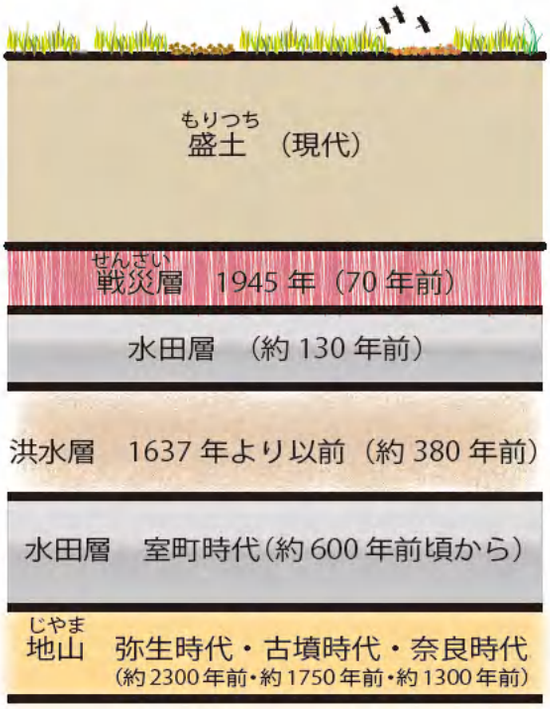
調査区の西側では、たくさんの水路が見つかりましたが、建物の跡はまだ見つかっていません。

大型水路堆積状況（南から）

多量の洪水砂で埋まっていました。洪水は一度に来ただけではなく、何度もこの水路に押し寄せていたことがわかりました。

大型水路内遺物出土状況（南から）

大型水路の中には、最初に訪れた洪水砂層の上面に、土師器杯が伏せられた状態でたくさん見つかりました。洪水後に、お祀りをしたのかもしれません。



堆積状況略図

土地利用の変遷

①栗林小学校の旧校舎の建設の際にされた盛土。

②戦災層：第２次世界大戦で、当時の校舎は、一部を除き焼失。その瓦礫の整地層。

③水田層：明治に栗林小学校が現在の場所にできるまでの水田。

④洪水層：香東川の付替え前に頻発していた洪水による堆積層（１６３７年以前）。

⑤水田層：１５世紀（室町時代）から洪水によって水田が埋まるまでの水田。

⑥地山　：弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺構が地山の上で確認できる層。

畦畔（田んぼのあぜ）検出状況

畦畔堆積状況

おわりに

栗林田中遺跡のある場所は、周辺よりも少し標高が高い、微高地上に位置していたことから、洪水などの心配がなく、昔から人々が暮らしていたと考えられます。

これまでの調査では、当時の人が住んでいた建物跡はまだ見つかっていませんが、地形が高くなる南側で見つかる可能性があります。

新しい時代になり、人が住まなくなると、微高地という特性上、水がかりが悪く、水田にするには大変な労力がかかったようです。大規模な大形水路を掘削し、水を引き入れることで、水田に水を行き渡らせていたと考えられます。

しかし、苦労して造った、水田や大形水路も、その後の自然環境の変化によって起こった洪水によって埋まってしまいました。しかしながら、この地に暮らす人は、諦めず、新しい水田を造ります。『田中』という地名には、当時の人たちの苦労の跡が刻まれているのかもしれません。